

藍色ってこんなにキレイだった！ 藍染体験レポート vol.1「藍の汁染め」



今では遠い昔…「鴻臚館」という建物がありました。外交の窓口として異国のお客様を迎える施設で、当時では珍しい瓦屋根の豪華な建物でした。調度品も衣装も行き交う人々も異国情緒に溢れて、その華やかなさまは…と文字を読んでも、なかなか当時の雰囲気を実感できませんよね。そこで、歴史に色を！という企画です。伝統の草木染めを通して、**歴史に色付け**してみましよう。



お話は美術館 上野真歩さん



染め物体験の前に、染め物の話をみんなで聴きました。
自然のものを使って こんなにきれいな色に染められるんだね。

藍染めスタート！



準備するものは、左から藍の葉っぱ、白い絹布（25×25 cm）、ビー玉・輪ゴム。
白布を青く染めるために藍の葉っぱを使います。でもその葉っぱは…あれ？緑色だ！！

【下準備】

- ① 藍の茎を土面から 5cm ほど残して枝（20cm ほどになる）をとり、鋏で葉を落とします。
※葉をちぎると、葉汁で指先が青くなる！
※水洗いで葉のゴミを落としましょう。

今回は人数が多いので分量ごとに小分け⇒



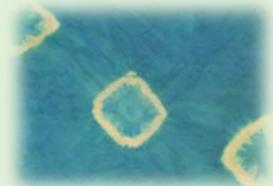
【染め原液をつくる（布 4 枚分）】

- ② ミキサーに水と藍の葉を入れてスイッチオン
全量：水 500～600cc 葉 200g
※3 度に分けて攪拌するのがコツ！
ミキサー満タン分の液を作りましょう。
※ミキサーの蓋は開けない！酸化厳禁！



大人が染め原液を作っている間に 子どもたちは模様づくりです。

ボタンやビー玉を絹布でくるんで輪ゴムでしっかり縛ります。てるてる坊主みたいだね。



ゴムで縛ったところは染まらないので白っぽく仕上がります。

【染める】

③ミキサーで作った染め原液を「さらし布」でこして タライに入れたら、模様の準備をした白布をその中へ。

- ④ 1回目：漬ける（5～10分）
→ 絞る → 広げて空気に当てる
2回目：漬ける（置き時間なし）
→ 絞る → 広げて空気に当てる
3回目：漬ける（置き時間なし）
→ 絞る → 広げて空気に当てる

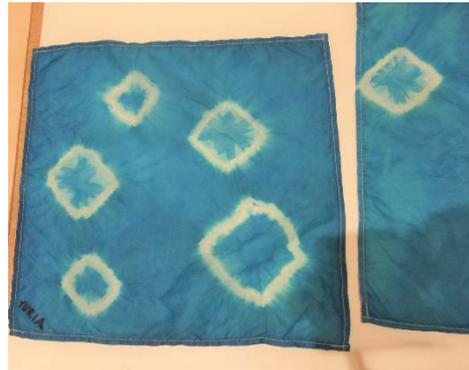
※漬けるときは手で揉まない。

※絞る時は力いっぱい絞る。

⑤ ④で染めた布を水洗いして干す。

⑥ ⑤が生乾きになったらビー玉・ボタンなどを外して、仕上げ洗い（水洗い）をして干す。

完成



初めは 藍の葉の色「緑色」に染まった布が、空気に触れるたびに深い青に変化していきました。現代では「化学」で証明される変化なのでしょうけれど、初めて体験した人にとっては魔法のような不思議な感覚ですよね。

ところで、この美しい藍色は、動物由来の布でなければ発色しません。木綿など植物由来の布では主に緑色になってしまいます。「藍色」を出したいときは ぜひ絹布のご準備を！

（染め物体験レポート vol.2 「藍の葉のたたき染め」につづく）

フラワーボランティアのみなさんのご協力により、楽しいイベントになりました。ありがとうございました！